

これからの生き方を考える

はじめに

教師海外研修に参加させていただき、ラオス人民民主共和国の子どもたちが置かれてる状況の二面性から、日本の子どもたちの状況を改めて考えるきっかけをいただいた。

ラオスには、繋がりの温かさ、今あるものに感謝する心、自然と共存する人々の姿勢など、日本が発展と共に失ってきたものが変わらずあり、子どもたちが自然の中でのびのびと活動し、自然体験から学びを深められる環境、集落全体が繋がりが合い、様々な大人たちとふれあうことができる環境があった。一方で、これからの未来を創っていく子どもたちへの教育がおろそかにされている現実とそれには様々な問題が根深く絡まりあっているということを知った。

その影響を一番大きく受けるのは、今の状況を自力で変えることが難しい子どもたちである。生まれ落ちた環境が違うと言う1点が、子どもたちの将来に大きな影響を及ぼしてしまうということを強く意識させられる日々だった。

6年生担任として中学校進学へ向けて自分の将来を描き始める子どもたちと、世界の子供達が置かれている現実について学び、考えることで、自分の今の立場について客観的に見つめ、これから地球に生きる一人としてどのように生きて行くのかをともに考えていきたいという思いから教材作成に至った。

この教材の使い方

「人生なりきりゲーム」は世界の子供たちが生きる環境や、これから先に待っている未来について考えることを通して、今自分が出来ることや自分の将来について考える教材として作成した。5つの役割があるため、1チーム5人以上になるように割りふるとよい。

今回はラオスを題材にゲームを行ったが、ほかの国でもその国の状況に合わせて内容を書き換え活用ができる。なお、ゲームの内容、使用したデータは2024年に実施した際のものである。

全体のねらい

世界の子供達が置かれている状況を知ることを通して、今自分が出来ることや自分の将来について考える。

アクティビティ 「日本の12歳、ラオスの12歳」

● 概要

指導者からの話だけで、見たことのない場所のことをイメージし、課題を自分事としてとらえることは、子どもたちにとって難易度が高いと感じた。そこで、それぞれの役割になりきり、ゲームをすることを通して、世界の子供たちが置かれている状況を知り、今自分が出来ることや自分の将来について考える教材として作成した。

日本に生まれた人、ラオスのラオ族として生まれた男女、ラオスの少数民族の一つ・モン族として生まれた男女の5つの役割に分かれる。自分の設定（住んでいる場所、両親の仕事、家族構成など）が書いてあるカードを見ながらお互いに自己紹介を行う。その後、役割順にさいころを回し、すごろくを実施後、感じたことを伝え合う流れである。

●ねらい

- ・日本に生まれた人、ラオスのラオ族として生まれた男女、ラオスの少数民族の一つ「モン族」として生まれた男女の5つの役割に分かれて人生なりきりゲームを行うことを通して、世界の子どもたちがどのような環境に置かれているのかを理解する。
- ・自分たちに何ができるかを考え、自分の生き方について考える。

●主な対象

小学5～6年生

●用意するもの

- ・スライド（P52～）
- ・役割カード（P59）：5種のうちいずれか1枚を全員に配布できるように印刷しておく
- ・ワークシート「カード集計表」（P57）：グループ数分
- ・さいころ：グループ数分
- ・ふり返しワークシート①、②（P58）：人数分

●所要時間

45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 今回の学習は「なりきり人生ゲーム」を通して世界の子どもたちが置かれている状況について学習していることを伝える。</p> <p>めあて：なりきり人生ゲームを通して日本の12歳とラオスの12歳を比べよう。</p> <p>2. なりきり人生ゲームをする (1) 0歳 誕生（P52スライド2-3） なりきる役割を紹介し、じゃんけんで役割決めをする。</p> <p>役の情報が書いてある「役割カード」（P59）をそれぞれに配布する。</p> <p>役になりきって自己紹介を行う。 「私は、（国名）に住む（民族）人の（名前）です。親は…。」</p>	<p>じゃんけんで勝った順に、①日本人 ②ラオ族の男子 ③ラオ族の女子 ④モンの族男子 ⑤モン族の女子 の役割を充てる。 ※子どもたちには役割を選ばせないようにする。</p> <p>配布後、自分の役割の人物像を想像する時間を少しとる。</p> <p>「役割カード」には、名前、家族構成、保護者の仕事、食べ物、住んでいる家や地域についての情報を載せておく。特に、食べ物、家や地域の様子はイメージしやすいように写真を載せておく。</p>

(2) 3歳 (P52スライド4-6)

- ①3歳のスライドを見せる。
- ②書いてある説明を全体で読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う(さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」(P57)に○をつける)。(3歳の説明の例)
「日本人の子ども」の「役割カード」を持っている児童はさいころを振る。
※以下同じように①~③を繰り返す。

全てのグループが完了した後、スライドで補足説明を行う。

(3) 6歳 (スライド7-10)

- ①6歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う(さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全てのグループが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、子どもたちにどんな困ったことが起こるか、役割になりきった疑似体験を通して考える。

『みんなが全部の授業を、英語で受けるのと同じ感じだよ』

「大事な連絡とか来たときに困る」

「友達との会話に困りそう」

「3歳のスライド(もらえるカードの指示は隠した状態)」(スライド5)を全体に掲示する。

✂、♡、👤のそれぞれのカードを多めに作成し、サイコロの指示に従って各自がもらえる枚数を随時取っていき、最終的に手元にあるカードの種類と枚数を比較する方法でも良い。

★補足説明 (P55)

人口ピラミッドを提示 (P55スライド1)

日本には保育園や幼稚園に行く子どもたちが多く、そこでたくさんの友達を作ることができる。ラオスでは、子どもたちの割合がとても多い。村に子どもたちがたくさんいるので、村全体で子どもたちを育てるような環境がある。(実際にモン族の村で子どもたちと遊んだ写真(P55スライド2)を見せる。)

★補足説明 (P55)

ラオスの民族の割合を提示。(P55スライド3)

ラオスには51の民族がある。ラオ族はラオ語を話し、モン族はモン語を話すというように、51の民族がそれぞれの言語を持っている。しかし、ラオスの学校のルールには「先生は必ずラオ語を使って全部の勉強を教えなければいけない」というものがある。

またラオスには「進級テスト」というものがあり、それに合格しないと進級することができない。言語のハードルがある少数民族の子どもたちの中には、同じ学年を何度も繰り返さなければならずつらい思いをする子どもたちもいる。

(4) 8歳 兄弟が誕生 (スライド11-17)

- ①指導者は8歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、男女でこのような違いがでることについて、以下のように問いかける (発問する)。
『女子だからという理由で学校に行けないのはどう思う?』
「どうして女子だけなんだろう」
「昔の日本も女性の権利が保障されていないときもあったよね」

(5) 11歳 (スライド14-17)

- ①11歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

(6)12歳 (スライド18-20)

- ①12歳のスライドを見せる。
- ②全体で書いてある説明を読みあげる。
- ③各チームで説明の指示に従う (さいころを振り、出た目の数にそって、ワークシート「カード集計表」に○をつける)。

★補足説明 (P55)

15歳から24歳の識字率 (男女比) を提示。(スライド5)

男子と女子の、文字を書いたり読んだりできる能力を比べると、男子が89%に対して、女子は79%と10%もの差がある。これは、女子が家の手伝いや家族の世話係をするために、学校に行けないことが影響している。

★補足説明 (P55スライド6)

ラオスでは小学校は5年間。11歳で卒業する。ラオスの子どもたちが学校に行くことが難しい理由として、家の手伝いの他に地理的環境もあることを伝える。それらが原因で、進学率も日本に比べると低い。

全部のチームが完了した後、スライドで補足説明を行う。

補足説明後、再度ラオスの進学率のグラフを提示して、学校に行くことが難しいと将来にどのような影響が出てくるのか考えさせる。

4. ワークシート「カード集計表」でそれぞれのアイコンの数を比較する。

終了後、ゲームで得た🔪、❤️、👨の数をそれぞれ比べる。

「日本人はどのカードも多い」

「ラオスのモン族の女子が一番少ない」

「女子より男子の方がたくさんカードを持っている。」

それぞれのカードの意味を確認し、どんな違いがあるか考える。

🔪=必要な知識、学力

❤️=元気、やる気、モチベーション、メンタル、自信

👨=家族、友達、支えてくれる人たち

5. ゲームの結果を受けて、「それぞれの立場の人生をなり切ってみてどう感じたか」「どこで違いが生まれているか」について考えさせ、(P58のふり返しシートに記入させ)全体で共有する。(P55スライド8)

6. 世界の子どもたちが置かれている現状について説明をする。(P60資料①参照)

(例) 経済的、地理的、文化的、政治社会的要因、教育資源の不足など

様々な理由によって学びたくても学べない子どもたちがたくさんいる。世界中で現在学校に行くことができない子どもたちは2億4400万人。(P56)

→この子どもたちは10年後、どんな人生を送るのだろうか。

→人生の選択肢の数はみんなと同じだろうか。

★補足説明 (P55スライド7)

ラオスの子どもたちは、学校に行くことができていても様々な理由で十分に学ぶことができない現状にある。

- ・学校の先生の数が足りないこと。
- ・教科書が十分でないこと。
- ・道路や施設の不具合などで学校に通うことが難しくなることもあること。

グループ内で役割ごとに並べ、気が付いたことを発表させる。

他のグループの結果を見合っって共通していることを確認してもよい。

どんな時にカードがもらえたり、没収されたりしたのかを確認し、児童が意味を考える時間を取る。ワークシート①に書き込む。

<p>日本国内でも同じような課題があることに目を向けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語面の課題：日本語のサポートが必要な児童の割合。 ・日本における男女格差。 <p>→日本にも見えない格差がまだ多く存在している。</p> <p>今回のゲームで役割を選ぶことができなかったように、誰もが、生まれてくる場所を選ぶことができない。今みんなが学校で勉強できていることも“当たり前”ではないということを伝え、その事実についてグループで話し合う。</p> <p>「勉強をすることができるというのは、みんなに与えられた権利。それをどのように使っていくのかをこれから考えていきましょう」と問題提起して、オープンエンドで終える。</p>	<p>授業では、女子受験者の点数のみ減点された医大入試に関する新聞記事を提示した。</p>
<p>ふり返し 授業全体を通してのふり返しを記入する。</p>	<p>ふり返しワークシートの②に記入する。</p>

スライド（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

※スライド内の四角囲いは、初めから提示するのではなく、各チームがサイコロを振り終わった後に見せるようにする。

人生なりきりゲーム

①0歳 誕生

①誕生 じゃんけんをします

勝った順に…

- 日本の子ども
- ラオス ラオ族の女の子
- ラオス ラオ族の男の子
- ラオス モン族の女の子
- ラオス モン族の男の子

人物カードと【👤】人カードをとろう

②3歳

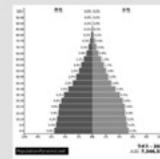
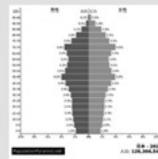
②3歳

日本の子ども・・・【保育園に入学】👤を振る

- ・ 1～3 : 保育園に入ることができた 👤 + 2
- ・ 4～6 : 保育園に空きがないが
家族団らんの時間を過ごす 👤 + 1

②3歳

ラオスの子ども・・・【村には子どもがたくさん！】
・ 友達ができる 👤 + 2



③6歳

③6歳 【小学校に入学】

日本の子ども 日本では授業が日本語で行われる。

- ・ 友達が増える 👤 + 3
- ・ 授業を受け知識が増える 📖 + 3
- ・ 授業が分かり、自信がつく ❤️ + 3

ラオ族のこども ラオスでは授業がラオ語で行われる。

- ・ 友達が増える 👤 + 3
- ・ 授業を受け知識が増える 📖 + 3
- ・ 授業が分かり自信がつく ❤️ + 3

③6歳 【小学校に入学】

モン族の子ども ラオスでは授業がラオ語で行われる。

- ・友達が増える +2 🧑‍🤝🧑
 - ・授業がラオ語で行われるため、ついていくのが大変
- 🧑‍🤝🧑 を回し指示に従う

③6歳

→ 1~3

ラオ語が分からず、勉強に苦しむが
必死に勉強したのでラオ語が分かるようになってきた
・ラオ族の友達が増える 🧑‍🤝🧑 +1 ・知識が増える 📖 +2
・授業が分かり自信がつく 🧡 +2

→ 4.5

ラオ語の勉強を誰よりも頑張り、賢くなった
・ラオ族の友達が増える 🧑‍🤝🧑 +1 ・知識が増える 📖 +3
・授業が分かり自信がつく 🧡 +3

→ 6

勉強が分からず、進学試験に合格できない
・もう一度1年生をやり直すことになる 🧑‍🤝🧑 -1 🧡 -1

④8歳

④8歳 兄弟が誕生

日本のこども 弟が生まれた！

🧑‍🤝🧑 +1

④8歳 兄弟が誕生

ラオスの子ども 弟が生まれた！

🧑‍🤝🧑 +1

ラオ族・モン族の女子

両親が働きに行く間、弟の世話を任せられた
世話係となり学校に行くことができない
友達との関わりが減る 🧑‍🤝🧑 -1

⑤11歳

⑤11歳 【小学校5年生】

日本の子ども

小学校での勉強を頑張っている。 📖 +2
しかし、勉強が難しくなったので塾に入ろうか迷う。

🧑‍🤝🧑 を回す

1. 塾に入ることができ、成績が上がる 📖 +1 🧑‍🤝🧑 +1 🧡 +1
2. 住んでいる近くに塾がないので塾に入ることができない
3. 通信教育【Oチャレンジ】ができる。 📖 +1 🧡 +1
4. ユーチューブにはまり、勉強しなかったためテストで30点を取った。 📖 -2 🧡 -1
- 5.6. もう一度回す

⑤11歳 【小学校卒業・中学校入学】

ラオスの子ども 小学校を卒業 🧡 +3

中学校進学・・・🧑‍🤝🧑 を回す

⑤ 11歳 【小学校卒業・中学校入学】

- 1～4. 住んでいるところから中学校が遠いので
一時間かけて歩いて登校する
👤+3 🗑️+3
- 5・6. 家の問題で働きに出なければなくなり、
中学校に行けなくなる
👤-2 🗑️

⑥ 12歳

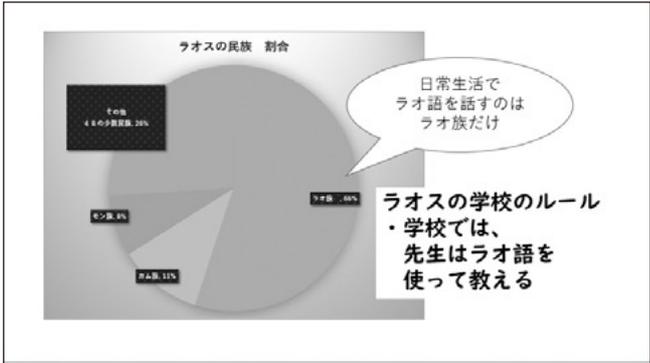
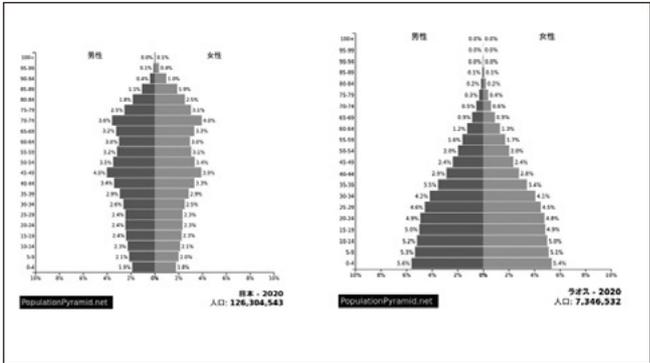
⑥ 12歳 【現在、そして将来】

- A: 小学校を卒業し、中学校に入学する
❤️+3
👤+3
🗑️+3

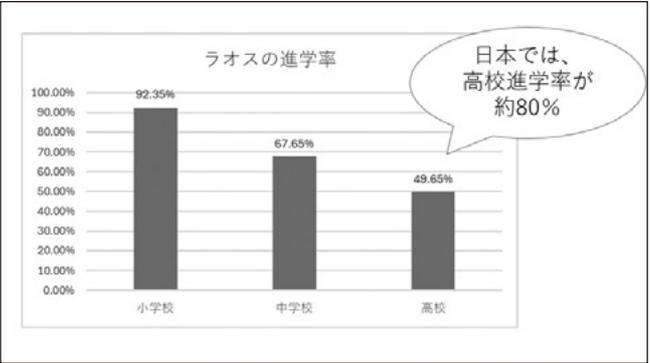
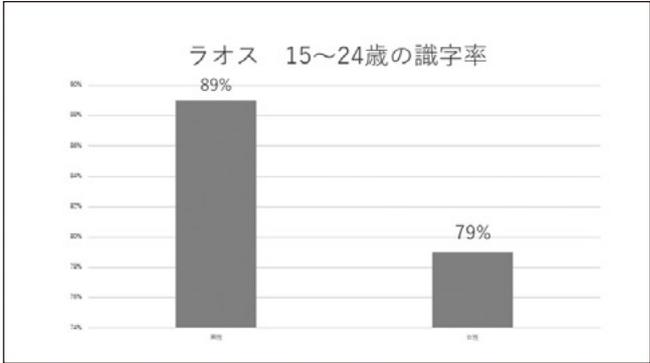
⑥ 12歳 【現在、そして将来】

- ラオスの子どもたち 🗑️を振る
1. 学校の先生が足りないので、授業が行われない日がある
 2. 教科書の数が足りず、十分に勉強できない。
 3. 雨季で洪水が起こり、学校までの道がとだえた。
学校に長期間行けなくなる。
- 4～6. 中学校に通い、勉強を頑張る
🗑️+3

補足説明時のスライド



どんなことが起こる？

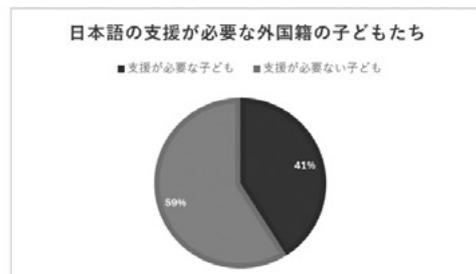


- ・少数民族の子どもたちにとって、ラオ語での授業が理解できず、進級・卒業を妨げている
- ・山がちな地域では、学校が村になかったり、通学に時間がかかったりして、物理的に学校で教育を受け続けることが困難である
- ・家庭の経済状況により働かなければならない
- ・保護者の学校教育に対する意識の低さ

それぞれの立場の人生をなりきってみて
 どう感じた？
 どこで違いが生まれている？

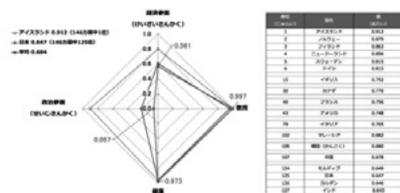
学校に通っていない子どもたち
(6歳～17歳)は、
世界に2億4,400万人。

日本にいる外国籍の子どもたち…約15万人



日本のジェンダー・ギャップ指数

- 世界各国の男女の差を測る調査
- 日本は146カ国のうち125位 (2023年度の調査結果)

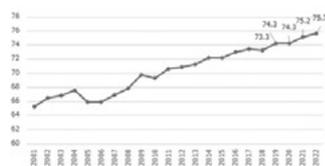


「経済」分野では
かなり男女の差が
広がる

勉強や仕事で「女の子だから」差別されることがある？ | 日本財団ジャーナル

日本の現状

- 管理職の立場にいる人のほとんどが男性である
- 働いてもらえるお金が全体的に男性より少ない
→ 同じ仕事をしていても女性の賃金が低い



男性のもらえる賃金
(平均)を100%とす
ると、女性はその
75%しかもらえてい
ない

(注) 2020年以降の統計方法が変更されている。

一般労働者の月給賃金における男女格差が10年連続で縮小 (国内トピックス: ビジネス・トレンド・トレンド 2023年5月号) | 労働政策研究・研修機構 (JILPT)

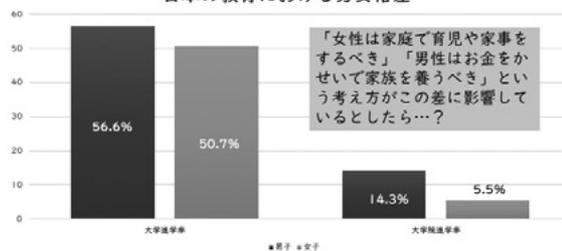
日本の現状

- 政治家に女性の数が少ない



日本の国会議員の女性比率は16.0% - 立憲民主党

日本の教育における男女格差



「女性は家庭で育児や家事を
するべき」「男性はお金をか
せて家族を養うべき」とい
う考え方がこの差に影響して
いるとしたら…?

ジェンダー教育とは？課題・解決策・取り組みを詳しく解説 | 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン

こんなことない？

女子は理系 (算数・理科) に弱い？！

- ▶ 「東京医科大が医学部医学科の一般入試で、
女子受験者の得点を一律に減点していた」ことがニュースに

でも、実際は男女の脳に違いはない！

環境が格差を作り出している

カード集計表 もらった数だけ○をつけよう

日本人 子ども	
	
	
ラオ族男子	
	
	
ラオ族女子	
	
	
モン族男子	
	
	
モン族女子	
	
	

ふり返しワークシート①

(役割ごとに異なったワークシートを配布する。タブレットで全員が同じファイルに書き込んでもよい)

<p>● 佐藤さん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	<p>● ラオ族 ヤンさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>
<p>● ラオ族 ヴァンさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	<p>● モン族 カムさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>
<p>● モン族 ノイさん 名前: <input type="text"/></p> <p>感想 それぞれの立場で考えたこと</p>	

ふり返しワークシート②

今日の授業を通して考えたこと

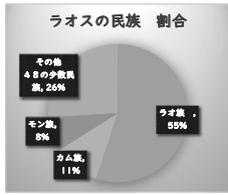
● ラオ族の女の子

- ・名前：ヤンさん
- ・ラオ語を話す
- ・メコン川の近くの平地に家族6人で暮らしている。
- ・家族は、水田での稲作を仕事としている。



町の中に家があり、周りにも建物がある
 広くて長いメコン川
 ラープとカオニャオ(お米)

- ラオ族って...?
- ・ラオスの人口全体の55%【約744万人】
 - ・ラオ語を話す



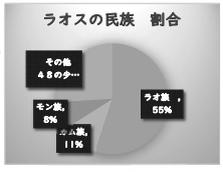
● ラオ族の男の子

- ・名前：ヴァンさん
- ・ラオ語を話す
- ・メコン川の近くの平地に家族5人で暮らしている。
- ・家族は、水田での稲作を仕事としている。



町の中に家があり、周りにも建物がある
 広くて長いメコン川
 ラープとカオニャオ(お米)

- ラオ族って...?
- ・ラオスの人口全体の55%【約744万人】
 - ・ラオ語を話す



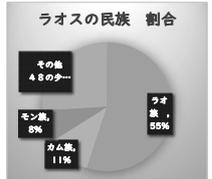
● モン族の女の子

- ・名前：カムさん
- ・モン語を話す。
- ・高地や山頂近くに、家族6人で暮らしている。
- ・家族は焼畑でトウモロコシの栽培を仕事にしている。



高い山の近くに家がある
 広い畑と田んぼが続く
 ラープとカオニャオ(お米)

- モン族って...?
- ・ラオスの人口全体の8%【約59万人】
 - ・日常生活ではモン語を使う



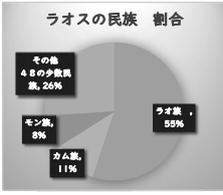
● モン族の男の子

- ・名前：ノイさん
- ・モン語を話す。
- ・高地や山頂近くに、家族5人で暮らしている。
- ・家族は焼畑でうるち米の栽培を仕事にしている。



赤土の山に家がある
 広い畑と田んぼが続く
 ラープとカオニャオ(お米)

- モン族って...?
- ・ラオスの人口全体の8%【約59万人】
 - ・日常生活ではモン語を使う



● 日本人のこども

- ・名前：佐藤さん
- ・島根県江津市に家族4人で暮らす
- ・親は、会社員として働いている。
- ・日本語を話す



江津の街並み
 日本の朝食

- 日本の民族とは...?
- ・単一民族国家【1億2000万人】
 - ・全員が同じ日本語を話す

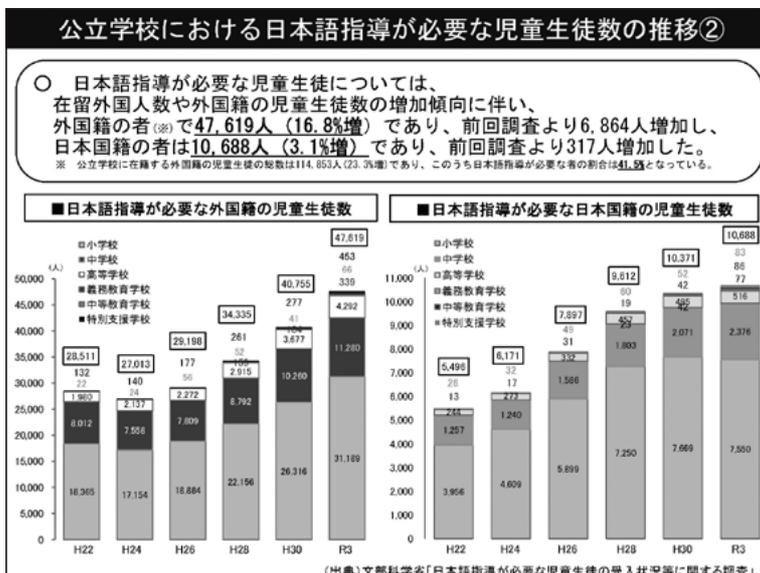
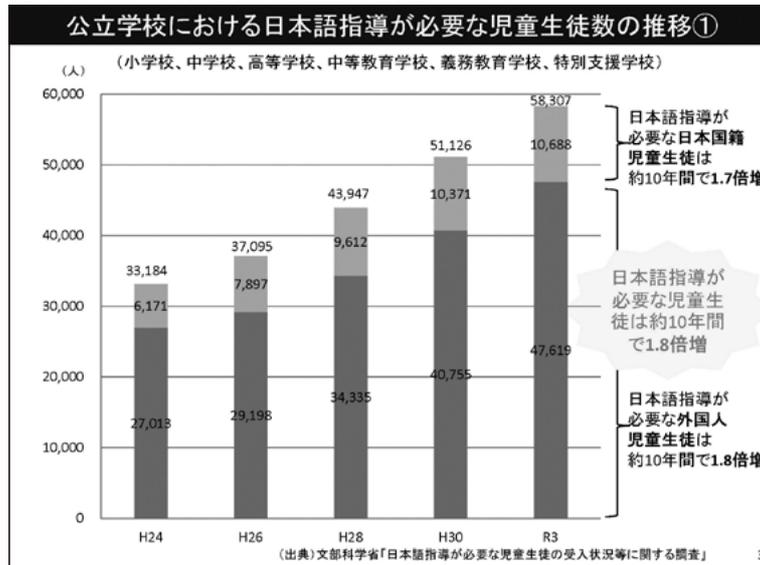


資料① 世界の子どもたちが置かれている現状

- ・ 経済的要因：家計を助けるために労働する必要がある、弟妹の世話のため学校に通えないなど。
親自身が教育を受けていない場合、教育への理解や関心が低く、学校に行かせてくれないケースも
- ・ 地理的要因：学校が家から遠すぎて通うことが難しい、危険
- ・ 文化的要因：女子に学問は必要ないという考え
- ・ 政治社会的要因：戦争や紛争で、学校に通えなくなってしまう
- ・ 教育資源の不足：先生の数が少ない・質が低い（十分な教育指導訓練を受けていない大人が、先生になっている）

資料②

言語面の課題：日本語のサポートが必要な児童の割合



出典：文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題」より抜粋

おわりに

国の政策や財政、外交問題などの大人の都合に伴って、その国の未来を作っていく子どもたちへ十分なお金を使うことができないという事実。そして、その影響を最も大きく受けるのは子どもたちである。字が書けること、文字が読めること、計算ができること、生きるために必要な知識を“当たり前”に受けることができているという日本の子どもたちの立場は“当たり前”ではないという事実が付き、自分たちに与えられた特権を、世界をよりよくするために使いたいという思いが生まれるように、また自分の人生をどのように歩むべきか一度立ち止まって考えるきっかけになるようにと教材を作成した。

授業実践にあたり、たくさんの伝えたいことの中からどのようなメッセージを教材に落とし込んでいくのか、経験した・していないの差をどのように埋めていけるのかについて考えた結果、上記のようなゲームを教材とした。課題を自分事としてとらえるために、役割になりきることは、当事者として考えるきっかけとなるものであり、他者理解をする上で有効であったと考える。

一方で、日本にも様々な理由で学校に行くことができない子どもたちがいる。今回取り上げた「学校に行けないこと」は子どもたちにとっても、とてもセンシティブであり、子どもたちの実態に合わせた配慮が必要であると考えます。

参考文献・引用資料

- ・「ラオスの人口ピラミッド」 「日本の人口ピラミッド」
<https://www.populationpyramid.net/ja/%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9/2020/>
<https://www.populationpyramid.net/ja/%E6%97%A5%E6%9C%AC/2020/>
いずれも『PopulationPyramid.net 世界の人口ピラミッド』 「Creative Commons(CC) ウェブサイト」より
- ・「ラオスの投資環境／2014年7月 - 第1章 概観（国土、民族、気候、社会、歴史等）」
株式会社国際協力銀行ウェブサイト 「投資環境資料のご案内」
https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/image/inv_Lao011.pdf
- ・『ジェンダー関連ODA評価 - ラオス』 外務省ウェブサイト 「国際協力 政府開発援助ODAホームページ」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/laos/you01_01_0001.html#:~:text=%E6%88%90%E4%BA%BA%E8%AD%98%E5%AD%97%E7%8E%87%E3%80%81%E7%94%B7%E6%80%A773.5,%E5%85%A8%E4%BD%93%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%A6%E5%9D%87%E7%AD%89%E3%81%A7%E3%81%AF%E3%81%AA%E3%81%84%E3%80%82
- ・「ラオスの基礎教育『開発の進展と学校に基盤を置いた教育行政』に向けたJICAの取り組み」 岩品雅子
- ・「教育問題3つの原因と解決策。開発途上国の子どもたちのためにできることは？」
国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパンウェブサイト
https://www.worldvision.jp/children/education_01.html#d0e9d87eb78fa54e47cd213ca7606442
- ・【参考資料】 外国人児童生徒等に対する教育支援に関する基礎資料（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/121/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/06/27/1373539_04.pdf
- ・「勉強や仕事で『女の子だから』差別されることがある？」 日本財団ジャーナル
<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/97905/sdgs>
- ・「一般労働者の月額賃金における男女格差が2年連続で縮小」（国内トピックス：ビジネス・レーバー・トレンド 2023年5月号） 労働政策研究・研修機構（JILPT）
https://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2023/05/kokunai_01.html
- ・「日本の国会議員の女性比率は16.0% - 立憲民主党」
https://cdp-japan.jp/news/20230718_6459
- ・「ジェンダー教育とは？課題・解決策・取り組みを詳しく解説」 国際協力NGOワールド・ビジョン・ジャパン
https://www.worldvision.jp/children/education_28.html#d0e9d87eb78fa54e47cd213ca7606442

実践事例報告

プログラム作成・実践者

木村 美咲

学校名

島根県江津市立郷田小学校

担当教科

6年担任

実践教科

総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

世界の現状を知ることを通して今自分ができることや、自分の将来について考える

(2) 単元のねらい

- ・世界の国々には、多様な文化や習慣があることを知るとともに、様々な国の文化を尊重する態度を育てる。
- ・ラオス人と日本人になりきり、人生なりきりゲームを行うことを通して、世界の子どもたちがどのような環境に置かれているのかを理解する。
- ・世界と自分をつなげて考え、今できることや自分の将来について見つめ直す。

(3) 概 要

実際に足を運んで現状を見たり感じたりすることができない子どもたちが、今世界の子どもたちが置かれている状況をしっかりと理解するためには、話を聞くだけでは不十分と考え、「なりきり人生ゲーム」を実施した。子どもたちを5人の役に分け、それぞれが誕生してから、12歳になるまでを辿ることで、世界の子どもたちが置かれている状況を自分事としてとらえ、課題を見つけるきっかけになるようにした。

(4) 指導上の留意点

写真はアクティビティを実施した様子である。12人の小さなクラスであったため、2人～3人ずつの5つのグループに分類し、一つの模造紙を囲んでゲームを行った。人数の多いクラスで実施する際には、各グループに「なりきりゲームシート」を配布し、【指導者の指示で1ターンを回す→指導者の補足説明や小ワークをする】を繰り返す。

(5) 児童生徒の感想や気づき、学び

補足説明や人生ゲームでわかるラオスの様子からは勿論だが、ゲーム終了後、目に見えて手持ちのカード（「元気」や「知識」、「支えてくれる人」を意味する）の枚数に変化があったことから、お互いが気づかない間に将来の選択肢に大きな違いが生まれることを、実感を伴って理解している様子が見受けられた。課題を自分事としてとらえるために、役の置かれている状況を、その役になりきり、理解することは有効であったと考える。「学校に行けるということがありがたいと思った。」「夢がかなえられることって当たり前じゃないのだと思った。」などの感想があがった。

【授業実践をした上での感想・ふり返り】

最初に行った自己紹介ゲームでは、自分の役割を想像し自己紹介をすることで、役になりきる準備をするのに有効だった。各ターン終了後に様々なデータを用いて、ラオスや世界の子どもたちが置かれている状況をより深く理解できる時間を設定した。「ゲーム」→「補足説明」→「ゲーム」…をテンポよく回すことができたため、児童の理解を深めることができたと感じている。

一方で、日本にも様々な理由で学校に行くことができない子どもたちがいる。今回取り上げたことはとてもセンシティブであり、子どもたちの実態に合わせた配慮が必要である。

